

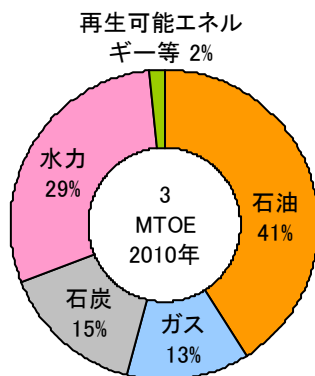
2-21 キルギス

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 3 百万 TOE (日本の 0.01 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2010年) : 0.54TOE (日本の 0.15 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 41%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 6.98 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 0.6%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 1.30 CO₂ 換算 ton (日本の 14.5%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2010年末) : 該当データなし

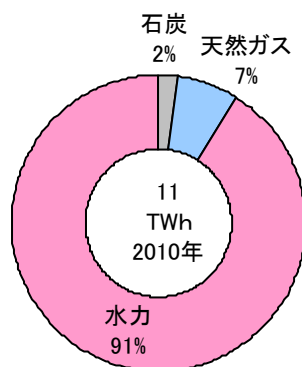
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Kyrgyzstan

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Kyrgyzstan

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- キルギス共和国産業・エネルギー・燃料資源省 (Ministry of Industry, Energy and Fuel Resources) が、産業全般及び燃料・エネルギー分野の政策立案と実現を一元的に管掌する中央行政機関となっている。

(2) 基本政策

- 天然資源に乏しく、ロシアとの良好な外交関係が国家存立の基盤となっている。
- カザフスタン南部・キルギス・タジキスタン・トルクメニスタン・ウズベキスタンを縦横に接続する“中央アジア電力系統 CAPS” (Central Asia Power System) の有効利用と水力発電の強化。
- 天然ガスは、隣国ウズベキスタンとカザフスタンより輸入している。
- 金採掘を中心とした、地下鉱物資源の探鉱・開発に注力中。

(3) 最近の動向

- 2010年7月、R. Otunbayeva 暫定大統領が就任 (任期 2011年 年末まで)。その後、2011年10月30日の大統領選挙にて、A. Atambayev 候補が当選。2011年12月1日、Atambayev 氏が大統領に就任した。
- Sangtuda-1 水力発電所が 2010年稼動開始後、国内電力事情が改善した。2012年10月現在、Sangtuda-2 水力発電所を建設中。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 1999年8月、国際協力事業団 (JICA) が派遣した日本人鉱山技師が誘拐され、日本政府が300万ドルの身代金を支払い、解放された事例あり。
- その後、二度の政変があり、大統領交代。日本とのエネルギー分野における関係は殆どなし。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	3 百万 TOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.54 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.96 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	41 %
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	6.98 百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	1.30 CO ₂ 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	
	石炭	16 %
	石油	43 %
	ガス	13 %
	原子力	0 %
	水力	30 %
	再生可能エネルギー等	-2 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	59 %
(9)	石油の輸入依存度	94 %
(10)	輸入原油の中東依存度	0 %
(11)	原油輸入先	
	第1位	N/A
	第2位	N/A
	第3位	N/A

(出所) : (1)~(4) および (7)~(9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition.

(5)~(6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition